

（議事要旨 1）テーマ提言について

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の基準開発のテーマの受付をいつから開始するかについて、サステナビリティ基準諮問会議事務局より提案が行われた。

本件に関して、SSBJ の川西委員長より、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）において最終化が予定される IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」（以下「S1」という。）と IFRS S2 号「気候関連開示」（以下「S2」という。）が重要であり、これと整合する日本基準の開発を優先することが考えられること、また新たなテーマへの取組みは状況を見て検討することが考えられることについて説明があった。

これに関連して、園田金融庁国際会計調整室長より、我が国のサステナビリティ開示基準の設定主体の法的位置付けに関する金融審議会ディスクロージャーワーキング・グループにおける議論の紹介があった。

サステナビリティ基準諮問会議委員より次の意見が聞かれた。

- SSBJ ではまず S1 及び S2 の審議を進めること、及び当面、サステナビリティ基準諮問会議では新しいテーマを受け付けないことに異存ない。
- SSBJ が、当面、S1 及び S2 の議論を進め、他のテーマについては様子を見ることについて異存はない。

ISSB のアジェンダ協議は重要であり、生物多様性、人的資本、人権に関して国際的に議論が進むことを肯定的に見守っていききたい。また、報告のつながりについても、「経営者による説明」と ISSB 基準による開示の整合性の観点から重要であると考ええる。

- 事務局提案に賛同する。S1 及び S2 の最終化を受けて速やかに我が国の基準に落とし込むことが SSBJ の最優先のミッションであると考えられる。我が国の基準が ISSB 基準と整合性のあるものとなることについては、国際的な期待も寄せられていると聞いている。また、ISSB のアジェンダ協議について、ISSB が現在検討している 4 項目は、リソースの配分の議論はあるとしても、我が国の関係者の関心が高い領域と考えられる。
- SSBJ が S1 及び S2 の検討に注力し、国際的な整合性を重視していく方向性に異論はない。ただし、その場合、我が国の議論が後追いになっていく恐れがあるため、そうならないように ISSB のアジェンダ協議における情報要請への対応についても本会議で議論していければと思う。

以 上